

「歯科医師需給問題」に対する

日本歯科医師会の見解骨子

—— 現在想定される諸条件を踏まえて ——

記

現段階の日本歯科医師会の考える適正歯科医師数

(現時点で想定される推計を踏まえたもの)

- 適正歯科医師数は、82,000名程度を上限と考える。
- 今後、新規参入歯科医師数は、1,500名程度を上限と考える。
- これを実現すると、20年後、人口10万対歯科医師数71名

<試算根拠>

「歯科医師需給問題」の検証にあたって今回人口10万対50名の歯科医師という国の目標を踏まえ、また現在試算される、人口変動、歯科医師リタイア数(死亡者も含む)、在宅歯科医療需要等を加味した試算。

- 国が目標とした歯科医師数(前提)は、
人口10万人当たり、歯科医師数50名である。
達成した昭和59年1診療所の1日当たりの患者数は=約25名
- 患者調査(H23年)より
受療率から算出した1日当たりの歯科診療所患者数 =1,362,500名
(受療率の中には訪問診療患者数も含まれている。)
- 外来歯科診療
平日(16日間)、木曜・土曜(9日間)から算出した
診療日数は20.5日であるため、

- 1 か月推計患者総数は、
 $1,362,500 \times 20.5 = 27,931,250$ 名
- 1 日当たり 25 名の患者数を保つためには、1 か月 512.5 名
 $27,931,250 \div 512.5 = 54,500$
あるべき歯科診療所総数は = 54,500 診療所となる。
- H24 年歯科診療所数と歯科医師数の比率 1.00 : 1.498 であるので、
これからバランスのとれた歯科医師数を推計すると

在るべき適正歯科医師数は：81,641 名 となる。

<新規参入歯科医師>

一方、毎年、新規参入歯科医師は、国家試験合格数即ち 2 千名前後（平成 23 年は 2400 名、平成 24 年は 2364 名）が増加する現実がある。今後、現行の歯科医師が新規参入すると、以下のような推計が可能となる。

医療施設従事歯科医師数平成 14 年と平成 24 年データを用いて平成 34 年および平成 44 年の状況を推計すると、

	歯科医師数	日本の人口	人口 10 万対歯科医師数
H34 年	102,787 名	人口 12281 万人	人口 10 万対 84 名
H44 年	98,571 名	人口 11487 万人	人口 10 万対 86 名
		H44 年推計に、76 歳以上がリタイアすると仮定しても 人口 10 万対 78 名	

20 年後、推計で日本の人口：1 億 1,487 万人

20 年後必要とされる歯科医師数は 80,409 名

よって、計算上は

- 20 年後、必要な推計歯科医師適正数は 80,409 名
 - 1 日の妥当な患者数から割り出した 適正歯科医師数は 81,641 名
- 両者は、「近似値」を示す。

概ね 我々の試算では、歯科医師数は上限 82,000 名が望ましい。

（歯科医師数は、人口 10 万対 71.4 名）

参考

在宅歯科診療の試算

- 平成 20 年のデータから試算すると、470 万人の 9 割 423 万人の 27%、即ち 1 か月に 114 万人の患者。
- 平成 20 年の歯科医師数：99426 名。
歯科医師 1 名当たり 11.5 人の患者を 1 か月に受け持つ。
1 か月の稼働日数はデータから、22 日
- 1 日あたりは 0.52 人の増加にとどまる。
- 仮に潜在患者数 423 万人の 50%が 1 か月に集中して受診しても
1 日あたり 1.92 人
- 1 医療機関 1 日の患者数 25 人に 1.92 人を加えても、十分に対応できる範囲の患者数。